



# 嘉多山

令和7年7月1日

【発行者】

佐野市立葛生義務教育学校

校長

## 【運動会の新たな3つの取組】(詳細は5/24のHP)

昨年度の学校評価から新たに3つの取組を実施しました。一つ目は、これまで学年ごとに行っていた後期課程の団体種目を3学年ひとまとめにして、児童生徒会で内容やルールを決めました。二つ目は、児童対保護者の玉入れ、生徒対保護者の綱引きを実施し、大いに盛り上がりました。三つ目は、来賓テント内に「思いやりスペース」を設置し、児童生徒が本校に通ってなくても、観覧しやすい席で応援していただきました。特に、最後の「原人太鼓」の演奏にはとても感心されていました。これらの取組を含め大成功で終了しましたが、その裏には、PTA役員の方々のご協力がありました。1週間前の土曜日に雨の中でしたが16張りものテント設営をしていただきました。また、当日は駐車場係、児童の指導、親子種目の運営をしていただきました。さらには、閉会式終了後には、保護者の皆様にも片付けをお手伝いいただき、短時間で終了させることが出来、大変助かりました。改めてお礼申し上げます。



玉入れも綱引きも保護者の圧勝でした。まだまだ子どもには負けられませんね。

来年度も児童生徒・保護者・地域・教職員が一体となって楽しめるような運動会にしていきたいと考えております。地域の方々も是非、お越しく下さい。お待ちしております。

## 【義務教育学校の強みを活かす】

### 「その① 児童生徒で考える楽しい学校づくり」

昨年度の学校評価の結果を受け、今年度の重点項目7項目(詳細は前号)を掲げました。今号は紙面の関係上その一つを紹介いたします。

「自分たちのことは自分たちで考えさせたい。」と思っても、これまでの慣習に伴い、どうしても我々が決めてしまうことが多々あります。楽しいことも学校の課題となっていることも、自分事として児童生徒にも考えさせることで、学校の一員としての自覚や責任が育成できます。これまで前期課程のみの縦割り班の編成でしたが、今年からは9年生までを交えて編成を行いました。異学年交流活動の活動単位とし、日常の清掃活動をやったり、共遊の時間や文化祭(笑顔満祭)等では、内容も自分たちで考えさせたりする機会を意図的に設定したいと思っております。このような活動を通して、下級生は先輩たちに憧れ、「あんなふうになりたい」と先輩に近づこうと努力をする。一方で、上級生は後輩たちに頼られている事を実感することで、さらなるステップアップを目指す。こうした相乗効果が学力や体力の向上、コミュニケーション力アップ等の教育的効果が期待でき、そうすることで「児童生徒で考える楽しい学校づくり」に近づくと考えます。



後期課程の団体種目に、前期課程の児童も参加するなど工夫がみられました。

次号(9月1日)では、学力向上のための環境整備や自己肯定感を高める支援体制の構築について紹介をする予定です。